

## 第40回 コンパス薬局スキルアップ勉強会

2015. 2. 13 熊山

### 『緑内障・高眼圧症治療剤 グラナテック点眼液0.4%』

興和創薬株式会社

参加者：高橋芳樹先生、松下、小西、山内、生越、阿部、藤吉、梅津、熊山

グラナテックは世界初の「ROCK (Rhoキナーゼ) 阻害作用」を有する緑内障治療点眼剤である。高血圧治療薬のスクリーニング過程において血管弛緩作用を有するものとしてROCKキナーゼが同定された。ROCK阻害作用薬の眼圧降下作用は、主流出路にある繊維柱帯細胞、細胞外マトリックス、シュレム管内皮細胞に有することが報告されており、これらの作用により、主流出路の房水流出抵抗を減少させ眼圧が下降すると考えられている。

#### 【効能・効果】

次の疾患で、他の緑内障治療薬が効果不十分又は、使用できない場合：

緑内障・高眼圧症

#### 【用法・用量】

1回1滴、1日2回点眼する。

#### 【禁忌】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

#### 【副作用】

国内で実施した眼手術患者を対象にした臨床試験で、総症例662例中500例(75.5%)に副作用が認められた。主な副作用は、結膜充血457件(69.0%)、結膜炎(アレルギー性結膜炎を含む)71件(10.7%)眼瞼炎(アレルギー性眼瞼炎を含む)68例(10.3%)であった。

#### 【特徴】

- ・世界初の作用機序(ROCK阻害作用)を有する緑内障治療点眼剤である。
- ・既存薬との併用においても良好な眼圧下降作用を示す。
- ・治療効果では標準薬のβ遮断薬やPG(プロスタグランジン)関連薬に及ばないようである。単薬治療あるいは他の緑内障治療薬との併用治療が可能。
- ・房水の流出を促進し視神経の圧迫を解消することで、眼圧を下げる。ただし、第1選択されることはなく、標準薬のβ遮断薬やプロスタグランジン(PG)関連薬が効果不十分または副作用などで使用できない場合に処方される。

### 【考察】

世界初の作用機序 (ROCK阻害作用) を有する緑内障治療点眼剤ということで、非常に効果が期待されるが、気になる点は、薬理上必発してしまう副作用の結膜充血である。Rhoキナーゼに血管平滑筋収縮作用があり、グラナテック点眼はその阻害作用により、血管平滑筋が弛緩するため、点眼後の充血が起こる。この充血に痛み等はなく、2時間ほどで消失するという。この充血は使い続けても、軽減されるといったことはなく、眼圧低下を維持するために継続する薬であるが故に、やや面倒な副作用と言える。この充血に関しては、炎症ではないので冷やしても効果はないとのこと、時間経過を待つしかないようである。

1日2回点眼するため、朝の点眼を起床後すぐに行うことで、外出するまでに充血を回復させるよう患者様へ説明することが必要となる。

グラナテックは現在、糖尿病性網膜症の臨床試験中でもあり、ROCK阻害点眼薬は血管新生を抑制、血管透過性の抑制、神経細胞の保護作用を持つという報告もあるため、こういった作用にも期待が高まっている。

### 【質疑応答】

Q. 新薬投与制限から、保険請求は何本まで処方可能か？

A. 2本までは保険請求可能。地域によっては、3本まで処方できるエリアもある模様。